

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900083		
法人名	医療法人 社団 寿光会		
事業所名	グループホームいきいきの家香取		
所在地	千葉県香取市玉造1-4-1		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 2 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	令和3年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てで静かな住宅地の一角にあります。施設内はバリアフリーになっております。リビングの大きな窓からは、田園風景を眺めることができ、遠くには筑波山を望む事が出来ます。近隣の散歩は車の往来が少ない田園の中をゆったり歩くことができ、四季を肌で感じることが出来ます。毎週訪問診療、訪問看護、訪問歯科が実施され医療面でも安心です。他科受診も対応しております。浴室には入浴用リフトがあり車いすの方もゆっくり入浴することができます。WEBでの面会も行っており、入居者様とご家族が顔を見ながら話すことができます。職員一人一人が質の高いケアを目指し、入居者様の尊厳を守りつつ家庭的な生活が送れるような施設作りを目指しております。

施設の良い点①職員意見の集約から行動目標のモットーを「笑顔溢れる介護」と決め、実践に全員が努力している。法人方針のユマニテッド技術力の向上と共に利用者との信頼関係が構築され笑顔が多く見られる現場である。又家族からも訪問時、何時でも誰でも笑顔で迎えてくれ気持ちが良い等多くの意見を頂いている。②施設周辺の恵まれた環境を利用してのどかな田園風景の中、蜜を避けた散歩が行なわれ季節や風を感じられる支援に力を入れている。③働き方改革についても職員の意見を取り入れた時短職員の採用、シフトの変更など意見・都合が優先され働く意欲に繋げている。④コロナ禍での対応としてWEBでの面会を取り入れ家族に使い方を優しく説明を行っている。残念ながら現在4家族に留まっている事を踏まえ、成るべく多くの家族が利用出来るよう説明を繰り返して、安心と笑顔溢れる面会が出来る家族が増える事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所、各ユニットに掲示、名札の裏にも書いたものを入れており、理念を常に念頭におき、目標とし取り組んでいる。	理念実践の為の行動目標として「笑顔溢れる介護」を職員と相談して掲げている。毎日職員は念頭に置いて支援を行なうことで利用者からの笑顔を引き出し、家族からも訪問時には何時も笑顔で応対してくれ気持ちの良いコメントが多い。、理念に対する意識は高く、全ての職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。 地域の方と散歩時に挨拶も交わしたりしている。	利用者は天気の良い日は散歩やスーパーに買い物、写真展の見学や図書館に本を借りに行っている。職員は美化活動に参加し、ボランティア活動を受け入れて紙芝居や体操等、中学の合唱部の皆さんの合唱が行われ地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設内の行事に参加を呼びかけ認知症の方の理解を得る場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の報告や活動内容、研修内容報告を行っている。また、意見を参考にしサービスの向上に努めている。	運営推進会議は事前に案内と確認をし、市の担当者・自治会長・民生委員・家族が参加して行事と同時に開催している。ホームからは利用者状況・行事・研修・台風時の対応等が報告されている。行事を見学し、ホームへの意見や要望はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へ運営報告を定期的に行っている。事故報告や待機情報等の相談なども行っている。また、市からの提案や情報交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者は運営推進会議に参加して意見を述べ、介護保険や他の市町村からの入居等の相談事、メールでの感染症・災害時対応・研修案内等に協力して取り組んでいる。グループホーム連絡会では困っている事の対応等の情報交換や研修に参加して連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず玄関センサーを使用している。身体拘束の無いケアをするために職員全員で話し合いを行っている。言葉のかけ方にも気を付けている。	法人の身体拘束0宣言の5つの目標を掲示し、身体束委員会を開催して周知している。入居時には家族に「身体拘束はしない施設」と転倒のリスクもある事を説明している。ミーティング時にはリスクと安全について話し合い、利用者の動向を見守り、行動の理由を考えて言葉の拘束はしないように心の余裕を持つように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらない環境を作り、虐待防止に努めている。ストレスをため込まないようにコミュニケーションを取っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い方については話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の十分な説明を行っている。不安や疑問点をお聞きしご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口があることを入居時説明している。ユニット入り口にも掲示している。面会時や電話連絡などで、意見や要望を聞きミーティングに取り上げ話し合いを行っている。	家族は運営推進会議に参加して意見を述べ、来訪時には利用者の状況を話し合い要望も伝えている。ケアマネージャーは面会時にケアプランの説明と話し合い、来れない家族には変化時には電話をしている。居室担当者は毎月「生活レポート」として生活状況を「生活面・医療面等と小遣い残高」と写真を添えて家族に送付し、良く状況が分かると好評となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホットライン制度があり代表に意見を言える制度がある。普段の業務内やユニット別のミーティング等で意見や提案を聞く機会を設けている。個人面談も実施している。	働き方改革が求められている今、時短職員の採用、シフトの柔軟な対応など、働き易さの意見を積極的に取り入れることでモチベーションアップに繋げている。個人面談を実施して意見・提案を聞く機会を設け風通しの良い職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標を立ててもらい向上心を持って働けるようにしている。資格取得支援制度・お祝い金制度を採り入れ、資格取得に意欲を持って取り組めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が行う研修に参加している。また内部研修も定期的に行い、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡会の情報が定期的に行われている。現在はメールにて情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご本人やご家族様が困っている事、不安に思っている事を傾聴、記録。安心して生活が送れる方法を考え、早期に生活に慣れて頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、困っている事、不安な思いを聞き本人への支援に繋げていくことで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診や他のサービスが必要と判断した場合、スムーズに利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活習慣を大切にし、出来ることはご自分でやって頂いたり、個々の能力にあった支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度お便りを出し状態を共有、レク等に参加された写真も同封し施設での様子を知らせている。また、WEBでの面会も取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解、協力のもと馴染みの方の面会や電話、お手紙等支援している。今年度は面会が難しいため家族へ直筆で年賀状を出している。	面会困難なコロナ禍に対応する為、携帯とパソコンを使いズームでの面会の仕組みを構築した。使い方の説明には来訪を促し、丁寧に解説を行い、毎月楽しみにしている家族は4組まで増えてきた。毎月のお便りには写真・コメントで利用者の近況を知らせる工夫を取り入れている。	スマホの使い方の理解が不足な家族に対し何度でも丁寧に説明を行ない、利用者と家族の楽しみや安心な面会に繋げる努力と工夫を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格を把握するとともに個性を尊重しながら、対立や孤立しないよう心がけている。また、1人の時間も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅等へ帰った後のサービスなどの情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に日常生活や大切にしている生活習慣を伺い、希望に添えるよう支援を行っている。また、日常生活の会話の様子から意向の把握に努めている。	入所前に生活歴等を聞いてアセスメントシートに詳しく記録し、入所後は生活の様子や会話をして意向を聞き取り、生活の記録で申し送りをしてケアプランに反映している。利用者の生活習慣を大切に、掃除・食器洗い等当たり前にやってきた事はやってもらい、その人に合わせて支援している。また、思いを伝えられない人は一緒に行動をして笑顔から理解をする様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から生活歴を確認し、アセスメントシートに記載している。新しく得た情報は随時追加している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況を毎日記録し、状況、状態の変化を把握する。ケアカンファレンスなどで、現状の残存機能について話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れると共に管理者や職員と情報を共有しそれぞれの意見等を反映させてケアプランを作成している。	担当者職員は家族の意向を確認し、ケア記録に記録し、ユニットのケアカンファで意見を述べ、ケアマネージャーは残存機能や改善点を話し合っケアプランを作成している。モニタリングを行って評価し課題はカンファレンスで話し合っている。変化時には医師の意見を聞いて見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を記録し、状況の変化の把握に努め、申し送り等を通じて情報を職員間で共有し実践やプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、買い物、病院受診付添などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染リスクの少ない所へ少人数で出掛け、季節を感じていただくよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望を確認している。受診時に適切に病状を伝えられるよう心がけている。御家族の協力で受診、または職員が対応、受診後は家族に受診結果の報告を電話等で行っている。	入所時に往診とかかりつけ医について話し合い、今年度入所者は全て訪問医に変更している。毎週往診が行われ、訪問看護師に職員は温度板等を見せて気になる事は相談し、受診も行われている。また、体調変化時には看護師に伝え往診や受診が行われている。精神科の受診は職員が同行して状況説明をし、受診後は「支援経過記録」に記録し家族には電話連絡を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子、気になる症状を記録し訪問看護時に伝え、相談、指示を仰いでいる。必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い情報提供を行っている。主治医やソーシャルワーカー、担当看護師と連絡を取り合い、情報交換や相談を通じて関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合い、書面にて説明している。本人の状態が大きく変化した際には、医師や看護師の意見を踏まえ、家族の希望を確認している。	入所時に「重度化及び看取りの対応の指針」を説明し、看取りはしない方針の同意を得ている。食事や水分が摂れなくなる時には医師の意見により家族に連絡をして話し合い希望を確認し、往診が行われて入院となっている。また、血圧や腹痛等急変時には家族に連絡し管理者の指示により救急車対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の方法を常に目に付くところに掲示している。また、救急隊員による応急手当の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害発生を想定した訓練を実施。職員全員が避難誘導を身に付けるように訓練している。	年2回消防署員立ち会いの下、夜間想定で火災対応マニュアルに沿って「通報・初期消火・避難誘導」と水消火器訓練を実施している。15号台風時には3日間の停電があり、2日目はショッピングセンターへ・3日目は系列施設へ全員の避難が行なわれている。19号台風時には法人指示により事前に他施設に避難が行われている。災害時の経験を活かしてポータブルコンロ・ヘッドライト・センサー等の補充が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い能力の向上に努めている。、職員同士でも注意し合えるよう指導している。	法人目標としてユマニチュードの研修が継続的に実施されている。職員の技術力は確実に進歩し、利用者からの笑顔を多く引き出している。困難事例でも信頼と絆の関係を構築する事で改善に繋げている。職員同士は言葉遣いに配慮して不適切な時には注意をしあって改善し、居室へはノックで了解を得て入室する等、尊厳とプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝えやすい環境作りを心がけ、声をかけている。会話の中でも本人の意向を傾聴するよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、食事の時間など、その方に合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに応じている。必要な物があれば家族に依頼している。ご自分で選ぶ等支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて野菜の皮むき等手伝って頂いている。またおやつ作り等を通じて食の楽しみ方を工夫している。嚥下状態に応じて、お粥、刻み、ミキサー食等の形態で提供している	コロナ禍で外出機会の減少によるストレスを少しでも和らげる為、食事で楽しむ為の機会を職員と相談しながら力を入れている。トロロご飯・おやつなど一緒に作る楽しみや、リクエストで好きな寿司・ラーメンを取り寄せるなどアイデアを多く取り入れた。訪問歯科の活用で口から食事をとる事を大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を活用し、個々の状態を確認しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。歯科往診にて個々にあった適切な口腔ケアの指導を受けている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の状態を把握、適時誘導を行っている。できるだけトイレで排泄し、気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。	排泄チェック表から時間での声かけ・仕草や表情を見トイレでの自立排泄を支援している。日中は布パンやリハパンツを使用してトイレへ行く回数を増やし、拒否する人には時間をずらし・人を替えて支援している。食事や水分量と排便の把握をし、医師の指示により下剤の調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分補給に心がけている。また、排泄チェック表にて排便の状態を把握し、個々に応じた医師の指示に基づき便秘薬の調整等に対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の対応を基本とし体調やその日の状況、希望に応じて対応している。リフト浴など能力に応じた入浴支援を行っている。	週2～3回を基本にバイタルチェックでの体調や気分に合わせて柔軟に支援している。拒否のある時は時間をずらし・人を替えて声かけをしている。脱衣場や浴室の温度管理、転倒など安全面、皮膚・痣の点検や軟膏塗布を行なっている。浴槽をまたげない人は2人介助でリフト浴で対応している。ゆっくりと入浴をし1対1の時間を大切に昔話で会話が盛り上がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休んで頂く。寝具等の洗濯、布団干しなど、清潔保持に努めながら気持ちよく休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を主治医に確認している。また服薬の際には、職員2名で確認し間違いの無いよう支援している。服薬チェックを記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事やおやつ作りを手伝って頂いたり、洗濯物を干したりたんで頂いたりしている。日々の会話などからアセスメントし得意なことにはなるべくしていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等個々の希望に応じている。	ホームの周りは田園風景が広がり、散歩は歩ける人2～3名と車椅子と一緒に出掛け、近くのスーパーでの化粧品・お菓子などの買い物に行っている。玄関先での日光浴や季節の花を楽しみ、外出行事では桜・梅・チューリップ・ひな人形の見学やワゴン車でのイチゴ狩りに出かけている。また、家族との受診時の外出も行なわれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望、家族の意向を伺い状況に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に入居者様と一緒に作成した季節に沿った飾り付けや、外出時や行事等の写真を掲示し、季節を感じて頂けるよう努めている。	リビングはエアコン・加湿器・洗濯物を干して温度・湿度管理をし、朝には窓を開けて空気を入れ換え、毎日掃除を行なって清潔のある共有空間となっている。利用者絵馬に今年の目標を書いて張り出し、今日の目標として歩く歩数等を掲げ達成者にはご褒美が出る楽しみがあり意欲を待って行っている。また、PTによる個別機能訓練計画書によるリハビリが行われている。ボランティアによる歌・踊り等楽しめる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合った利用者同士が話をされたり、ソファ等でゆっくりくつろげる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れ親しんだ物を持ってきて頂き、居室は自由に使いやすいように設置、飾りつけをして頂いている。	居室は使い慣れたタンス・棚・テレビ、大切な家族・孫の写真等を飾り、家庭生活が継続している雰囲気作りとなっている。エアコンでの温度管理やバスタオルを干して湿度管理、掃除や衣替は居室担当と一緒にしない、衣類はクローゼットに整理され物を置かないで導線が確保されている。夜間巡回では体位変換・トイレ誘導等安全の確認をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面バリアフリーとなっている。トイレ、洗面所など解りやすいよう大きな文字で表示したり工夫している。		

(別表2)

いきいきの家香取

目標達成計画

作成日:令和 3 年 1 月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		火災発生時の消防訓練、非常災害時に対する定期的な訓練が必要	緊急時冷静な対応ができるようマニュアルを理解し、行動できるようになる	マニュアル等を見直し、発生状況を変え定期的な訓練を実施する。緊急時の対応を理解する	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。